東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2026 年　VOL. 4 (2026. 10)

・27 大戦対校男子総合第 2 位、対校女子総合 2 位

・駅伝予選会男女共に優勝、本戦への出場権獲得

●天皇賜杯第 94 回日本学生陸上競技対校選手権大会(9/5-7) ----------2~4 ページ

●第 39 回国公立 27 大学対校陸上競技大会　----------5~10 ページ

●秩父宮賜杯第 58 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会兼第 19 回東北学生女子駅伝対校選手権大会
　兼第 44 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会　----------11~14 ページ

●自己ベスト更新者一覧　----------15 ページ

●今後の予定　----------16 ページ

●OBOG 戦のお知らせ　----------16 ページ

●編集後記　----------16 ページ

清秋の候、会員の皆様にはますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。
今号では、天皇賜杯第 94 回日本学生陸上競技対校選手権大会、第 39 回国公立 27 大学対校陸上競技大会、秩父宮賜杯第 58 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会兼第 19 回東北学生女子駅伝対校選手権大会兼第 44 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会の計 3 つの大会を中心に、各大会における選手たちの活躍をお伝え致します。

◎天皇賜杯第 95 回日本学生陸上競技対校選手権大会(9/5-7)～日産スタジアム～

各地区予選を勝ち抜いた選手や、ハイレベルな参加標準記録を突破した選手など全国の猛者が集うこの大会に、東北大学からも 10 名の選手が出場しました。以下、大会リザルトと観戦記を紹介いたします。

・選手報告

☆男子トラック

男子 400m 予選

3 組 5 着 岸本醍知(3) 47.25
申請タイムは組で最下位だったため、いつも通り前半を楽に走り後半で前を出来るだけ詰めることを目標にレースに挑んだ。意識としては全体的に悪くなかったが、七大戦終わりからアキレス腱の痛みでスピード練をあまり積めなかったこともあり、バックストレートでのスピードが遅かった。そのまま 200 通過から切り替え、後半は先頭集団と変わらない程度のスピードで走ることができた。PB を出すことは出来なかったが、全体 26 番目で帰ってこれたことは良かったと思う。全国レベルの人達と比べて MAX スピードが足りていないことを痛感した。ウエイト、動きの正確性を磨きつつ来年以降の学生個人、全カレで準決勝、それ以上を目指したい。

男子 800m 予選

渡邉優典(4) DNS
5 組 4 着 縣昌幸(3) 1:51.46
今季 4 番目のタイム。b 標を出すのはかなり安定している気がする。前の組を見ていて 51 台を出せれば準決勝に進めると考えていて、ブレイク前にスピードを上げておくことで周りの選手を刺激してハイペースな展開にしようとした。この甲斐あって自分の得意なペースになった。だがこれも夏休みに合宿で、長距離に寄せていた事もあって(OBOG 通信が 1500 が先になるのか 800 が先になるのか分かりませんが、聞いたのは 1500 が先です。)500 からのスピードアップには対応できなかった。ズルズルと順位を落としていき、ああ私のインカレはここで終わりかと思っていたが、650 付近からいや爪痕を残してやるという気概が生じてもがいたら 4 着でタイムで拾われた。準決勝進出を決めて非常に嬉しかった。

男子 800m 準決勝

2 組 6 着 縣昌幸(3) 1:53.32
かなり雨が降っていて体が冷えていた。先頭を引くつもりで走ろうと思ったが 2 レーンということもあり外側からブロックを受けた。そのまま前に出れない状況が続き、直線で離されるという典型的な敗北を喫した。まだまだだった。

男子 1500m 予選

渡邉優典(4) DNS
3 組 8 着 縣昌幸(3) 3:53.06
全員が格上というレースは初めてで、もはや楽しもうと言う気持ちで望んだ。1 周目は全国レ

ベルにしてはやや遅かったが、2 周目のペースアップに体が反応できなかった。東北地方では経験できない速度に必死でついて行ったが離れた。結果から見れば、格上だから離れておこうと思って離していたが、最後上げられたのでガン突きする勢いで食らいつくべきだったなとは思う。とはいえ大幅 PB なので及第点。これ以上は今までのレースと乖離がありすぎて脳がブレーキをかけていたかもしれない。長距離合宿に夏休みに参加し、かなり距離耐性をつけてきたこともあってこの大幅PBが出たのだと思う。この場を借りて参加させてくれた長距離の皆さんには感謝です。

☆男子フィールド

男子走幅跳 決勝

小南慧馬(4) DNS

男子走幅跳で出場権を獲得していました、4 年の小南慧馬です。7月に発症した腰椎分離症が完治せず、日常生活も辛い状態が続いており、結果として棄権という形になってしまいました。日頃よりご支援頂いているOBOGの皆様と、自分に期待を寄せて送り出してくれた陸上競技部部員には申し訳ない思いでいっぱいです。 しかし今回の選択は、自分にとって日本インカレ出場そのものが最大目標ではないからこその選択です。今回の怪我と棄権によってこれまでになかった視点で自分の体や技術を再構築する時間ができました。 また実際に日本インカレのトップ選手を見る中で、おこがましい話ですが、かつての自分と比べて、トップとの距離は確実に縮まってきていることも感じられる部分がありました。 自分には後 2 年の大学院での生活が残っています。数段強くなって東北大の歴史に残るような選手になって戻ってきます。 この度は沢山のご支援、ご声援ありがとうございました。

男子三段跳 決勝

19 位 大谷航平(D1) 14m24(+0.2)

8 月から徐々に調子を上げてきており、絶好調の状態で日本 IC に臨めるだろうと考えていた矢先、試合 1 週間前に右足の筋肉を損傷してしまい、直前まで出場が危ぶまれることとなってしまった。ただでさえ人生初の全国大会ということもあり、緊張や不安、期待感など様々な感情を抱いていた中での怪我だったため、試合までの 1 週間は本当に苦しく、そもそも出場すら叶わないのではないかという気持ちで押しつぶされそうな状態であった。しかし、卒業した同期や、普段活動を共にしている後輩からの応援・サポートに背中を押され、何がなんでも出場するという強い意志を固めて、大会当日を迎えることができた。試合当日のコンディションとしては人生で経験したことがないほどの雨と、この時期には異例の寒さという、全く恵まれないものであった。しかし、この悪コンディションによって足の痛みに対する不安や緊張などがどうでも良くなり、自分にとっては、むしろ不安を断ち切って前向きに試合に臨めるプラスの要因となった。試技内容としては、やはりコンディションの影響は大きく、助走合わせから跳躍動作まで全て一筋縄にはいかないものであった。しかし、気持ちが吹っ切れた分動きのキレ、大きさ共に申し分なく、かなり身体は動く状態だった。むしろ動き過ぎたことで 1 本目はファールしてしまったが、2 本目はそこを冷静に修正し、14m24 という記録を残せた。3 本目は雨が強まり過ぎた影響で視界も遮られ、あえなくファールという形で終了。記録だけ見れば、目標としていた 15m までは 76cm 届かずと全く良くはないが、他の選手が 60～70cm 記録を落としている中で比較的記録を落とさずに済んだこともあり、ランキング 28 位のところから実際の順位は 19 位と、なかなか健闘できたのではないか

と思えている。試合出場を危ぶまれたところからこの順位になれたことは、少し自分のことを褒めてあげられるかなと思った。しかしながら、やはりトップ層の選手とは技術もフィジカルもかなり劣っていることを身をもって体感できたため、今の自分では全く勝負にならないこともよく分かった。今シーズンは本大会で終了するが、来シーズンに向けてやるべきこと、必要なことが明確になったため、また陸上に対する高いモチベーションを持って、日々の練習に励もうと思う。

男子やり投げ 決勝

21 位 増田併介(4) 63.84m

緊張せず無難な記録が出せてよかった.

男子十種競技

15 位 鍵山弘樹(3) 6261 点

初の全日本 IC だった。8 月末にようやく怪我から完全復帰したものの、4 月から練習を積めていなかったこともあり全体的に低調だった。せっかく、部や三秀会からの支援もいただいた上で出場したのに十分に戦えず、非常に申し訳なく思っている。しかし、 2 年ぶりに怪我なく NM なく 10 種目完走できたことは個人的に非常にいい結果であった。ここで感じたトップとの差を忘れることなく来シーズンに向けて決死の覚悟で練習を積んでいきたい。

☆女子トラック

女子 200m 予選

2 組 2 着 白鳥名花(3) 24.65（-1.0）

日本インカレでの 200m 予選は、今回で三度目の出走となった。雨天に加えて気温も低く、風もあるなど、決して恵まれたコンディションとは言えない中でのレースだった。昨年は記録で拾われての準決勝進出だったため、今年は着順での進出を目標としていた。結果は目標を上回る 2 着で、準決勝進出を決めることができた。

女子 200m 準決勝

3 組 3 着 白鳥名花(3) 24.45 (-0.2)

昨年に続いて、二度目の全カレ準決勝。豪雨が予想されていたが、幸いにも小雨の中でレースを迎えることができた。アップから多くの支えを受け、良い状態でスタートラインに立つことができた。結果は 3 着で、これまでで最も良い位置で戦うことができた一方、決勝進出を逃し、悔しさを感じるレースとなった。ただ、決勝に進めなかったことを悔しいと思える経験ができたことは、今回の大きな収穫だったと思う。決勝進出者とは大きな実力の差を痛感したため、さらに精進したい。コンディションの悪い中でも大きく崩れることなく、レースができたことが結果につながったと感じている。

女子 400m 予選

4 組 5 着 臼井千晴(3) 56.80

スタブロからの出だしが遅かった。前半飛ばしすぎてラストたれてしまった。

女子 800m 予選

1 組 7 着 喜多和奏(4) 2:20.09

ケガの影響で満足にアップはできなかったが、アドレナリンを信じて走ることに。前半から前に着こうとしたがうまく上がらず、中途半端な位置につけてしまう。400m 通過時余裕を感じて前に出ようとしたが、550m 地点でほぼ使い切ってしまい、そのままずるずると落ちてしまった。せっかく出ることができた全国大会で全く戦うことができず、悔しい思いの引退となってしまった。

◎第 39 回国公立 27 大学対校陸上競技大会(9/22~23)～上尾運動公園陸上競技場～

今年の 27 大戦は、埼玉県上尾市で 9/22、9/23 の二日間にかけて行われました。台風の影響により一日目の中止や競技日程の変更など、イレギュラーな中での開催となりましたが、多くの選手が活躍しました。それでは、対校戦各選手による選手報告を紹介します。

・選手報告

☆男子トラック

男子 100m タイムレース決勝

3 位(3 組 1 着) 室田竜磨(4) 10.70(+0.2)

直前の雨で体が冷えてしまい前半スピードに乗るまで動きが鈍くなってしまった。中間疾走は腹圧を入れスピードを維持できたがラスト 10m で脚が大きく流れてしまい微妙な結果となった。タイムを狙っていただけに 1 発タイムレース決勝と直前の雨はだいぶ渋かった。

7 組 4 着 臼田蓮希(4) 11.17(+0.8)

夏に怪我をして練習を積めないまま出場しました。なんとか間に合わせられた気がしていたが、非常に足が遅く、申し訳ないタイムでした。そろそろ引退します。

8 組 2 着 元木盛太(6) 11.11(+0.1)

スタート後に足を回しにいってしまい、後半苦しい走りになってしまった。輝かしい引退試合とはならなかった。

男子 200m タイムレース決勝

1 位(2 組 1 着) 岸本醍知(3) 21.37(+1.0)

七大戦での感覚を意識して走る。スタートから上手く加速に乗ることができたのは良かったが、後半を意識しすぎてしまい、自然に上がってきた上体をワンテンポ抑え込んでしまった。100m 通過が遅くなり、体力もガッツリ余っていたことに焦り一気に出力を上げてしまう。それにより後半は綺麗な走りができず PB を若干更新してゴール。まだまだ 200 のレース感覚が足りないため来年度に期待。

3 位(4 組 1 着) 室田竜磨(4) 21.82(-0.2)

前半がっつり抑えた割に後半伸びずなんとも言えないレースだった。今シーズン 200ｍは走り方を見失っていいレースが 1 回もできなかった。

7 組 5 着 神近凛太郎 (4) 23.27(-0.4)

怪我による調整不足が響き、前半から出力を上げることができなかった。接地の位置がずれて力が伝わらない感覚があり苦しい走りになった。

男子 400m タイムレース決勝

高野珀人 DNS

7 組 2 着 菅野涼太(M1) 50.51

東北インカレでの怪我からの復帰戦の位置付けであった。急ピッチで調整したため、自分のリズムを大切にして前半を 24 秒で通過。ピッチを落とさない意識でコーナーを走り、300m を 35 秒中盤で通過するも体力が保たず最後 1 人に抜かされ 2 着でフィニッシュ。入賞も期待もかけられたレースで悔しい結果となった。

8 組 4 着 金子力也(M1) 52.34

正選手として大会に出場することが出来て、良い経験になった。 前半少し飛ばしすぎてしまった。

男子 800m タイムレース決勝

2 位(2 組 1 着) 縣昌幸(3) 1:52.25

優勝するつもりだったので序盤から攻めて大会記録を出したが、次の組に 0.01 秒負けて 2 位。運ゲーな試合だったとはいえ悔しい。

6 位(5 組 2 着) 金子宙生 1:54.82

台風の影響で、タイムレース決勝になった大会であったが自分の作戦は変えずに行った。最初の 200 は、若干後ろの位置をキープする状態に

なったが、そこから徐々にスピード上げていった。残り200mの地点で二番手になり、ラストスパートをかけるも先頭の選手には一歩及ばず、２着であった。全体で６位で入賞できたことは嬉しいが、もっと上の順位を狙える可能性が高かったので悔しい結果にもなった。

1 組 2 着 錦戸昴雅(4) 1:55.96

タイムレースとなり、前に付いていくだけの展開と想定していたが、予想よりも前のペースが上がらず、中弛みしてしまった。最後までペースが上がりきらず、最後も競り負けてしまい、あと一歩で入賞を逃す悔しい結果となった。

男子 1500m 決勝

2 組 3 着 北嶋僚大(4) 4:01.71

先頭がかなり速かったため、少しつられて1周目をオーバーペースで入ってしまった。その後ペースが落ちてラスト少し上げるも、3 着でフィニッシュ。

5 組 5 着 石川悠斗(1) 4:07.84

イレギュラーがあったけど自分なりにいい走りはできたと思う。

男子 5000m 決勝

1 組 12 着 赤埴凌星(1) 16:11.41

正選手で走らせて貰える貴重な機会で入念に調整し挑んだ。最初に 3'15 あたりの集団に怯えずにつけた。中盤はひたすらついて行き、気づいたら 4000m まで来てた。そのお陰で精神的にも辛くなく、ラスト 100m であげれた。

1 組 20 着 嶋田壮真(1) 16:44.92

PB は出すことができたのですが、終始 1 人になってしまって苦しい展開になってしまったのが反省です。

番場玲太(1) DNS

男子 10000m 決勝

1 組 5 着 栗原壮太(1) 35:36.55

今回のレースは台風一過の影響もあり気温、湿度ともに高く、コンディションは悪かった。その中でしっかり耐えて夏場の練習の成果を発揮したかったが、全く太刀打ちできず悔しい。これが今の自分の現状であると向き合ってさらに練習を積んで、次の対抗戦では部に貢献できる走りをしたい。

1 組 10 着 仲神誠輝(2) 36:41.45

準備不足を痛感した試合であった。暑さの対策を怠ってしまった。結果的に脱水状態になってしまい終盤には何度も給水をしていた。その日までの仙台の気候は大体 20℃前後と走るのに適した気温でありレース当日は 30℃程であった。このことは予報で把握できたことであり、この気温差に対して何も対策をしなかったのが最大の問題である。また、当然走力不足も感じた。強い選手は崩れても一定の範囲で収まるが私は際限なく落ち切ってしまった。レースを経験する度に当日の対応と基礎的な力とで周りとの差を感じてしまう。経験と地道な練習を重ね、逆に周りを圧倒できるように取り組んでいきたい。

男子 110mH タイムレース決勝

3 位(3 組 1 着) 長井颯馬(3) 15.02(-1.2)

走りました。

4 組 5 着 大山幹生(4) 16.82(-1.8)

2 週間ぶりに走ったら足つっちゃいました。 調子はいいので早く引退できるように気を引き締めます。

5 組 1 着 鍵山弘樹(3) 15.74(-2.7)

得点を目標に出場したが、全く歯が立たなかった。ひとえに練習不足によるものであると思っている。この試合でシーズンアウトなので、今まで力を入れてこなかったハードルにも冬季はリソースを確保する。

男子 400mH タイムレース決勝

7 組 1 着 堀航太朗(3) 55.49

レース前からハムに違和感があり、スピードにあまりのれずに 1 台目に入った。前半のタッチダウンが 0.1~0.2 秒ずつ遅いまま後半に入り、苦手な区間ではいつも通り垂れてしまった。結果として、1 着だが 55.49 でゴール。得点を取れず悔しい結果となった。来年の本格的に 400mH をやるために、切り替えて冬季練習を頑張っていきます。

5 組 3 着 八木陽輝 (2) 58.35

レース展開はいつものようにできた。ただ9台目の逆足ハードリングがどうしても浮いてしまうので、乳酸貯まる中でのハードルを丁寧に取り組んでいきたい あと、前半を恐れず突っ込める胆力も養う。

男子 3000mSC 決勝

1 組 1 着 北嶋僚大(4) 9:56.49

最初の 1000m は余裕を持って入った。2000m までではかなりペースが落ちてしまったが、まだ余裕を持っていたため、ラストで上げて1着でフィニッシュすることができた。

1 組 8 着 渡邉蒼太(1) 11:00.00

自信を持って行くことが出来ませんでした。ハードルで減速してしまうことが多かったので試合にたくさん出て慣れていきたいと思います。

1 組 9 着 中川 結太(1) 11:01.89

夏合宿、帰省を経て疲労が抜けてきている感覚があり練習も順調に積めていた状態でしたが、会場が想定以上に暑く心身ともに疲弊してしまい精細を欠く結果となってしまいました。一方で課題としていた水濠に関しては想定以上に上手くこなすことができ収穫を少なからず得ることができたので来春に活かせるようにまた練習を積んでいきたいと思います。

男子 4×100mR 決勝

2 位 元木(6)-島村(M1)-室田(4)-岸本(3)

記録：40.62

バトンパスによるロスはあったものの、全員が安定した走力を発揮して部歴代2位の記録でゴールすることができた。台風の影響で TR 決勝となり、東京学芸大に 100 分の 1 負けてしまったことが悔やまれるが、どのメンバーでも安定して 40 秒台を出せるようになっており、来年以降に期待である。

男子 4×400mR 決勝

DNS

☆男子フィールド

男子走高跳 決勝

7 位 平山朝陽(6) 1m90

できれば 195 を跳んで表彰台に乗りたかったですが、雨の中だったこともありベストは尽くせたとおもいます。

8 位 宮川真太朗(1) 1m90

天気が悪かったため仕方がない。

柴田駿吾(4) DNS

男子棒高跳 決勝

3 位 島村惟葵(M1) 4m70

4m70 からスタート。今シーズンはポール出しの技術を変えようと試みていたものの、シーズン後半になっても習得仕切れず、中途半端で安定しない跳躍を繰り返した。4m70 を跳び得点は最低限確保したものの、5m00 は安定感の無さから失敗。怪我を治して、来シーズン頑張ります。

4 位 齋藤成輝(1) 4m50

気温・風ともに悪くないコンディションであったために、記録を出せなかったことが悔しい。このひと夏練習を積んだ成果と、残る課題点を

認識できたので良しとしたい。来シーズンに向けてしっかりと冬季で力をつけたい

6 位 鍵山弘樹(3) 4m00

公式練習のときはしっかりと突っ込むことができていたが、試合になってからそれが甘くなってしまい、ポールをコントロールできなかった。今までよりも硬いポールを使用できたことは大きな収穫であったが、長くて硬いポールに対応した技術をまだ会得してないことも明らかになったので練習内容を考えるいい機会になった。

男子走幅跳 決勝

2 位 早藤海音(3) 6m99 (+0.6)

最初の二本ファールをしてしまい、3 本目も思うように跳べなかった。ファールをしないようにしっかり助走の練習をしたい。

23 位 坂元泰(M2) 6m02(+1.0)

スピードを上げ切れず、踏切に合わせることもほぼできなかった。当日のなかでというよりは、普段の練習でスピードの主観的な部分と客観的な部分がすり合わせできていないことに原因がある。ので、練習で助走の流れをちゃんと確実につくりたい。

高林 遼(1) NM

男子三段跳 決勝

7 位 奈良隆ノ介(3) 13m84(+1.1)

調子こそ良かったもののまとめきれず残念な結果になってしまった、来年は表彰台に乗れるよう冬季を頑張ろうと思う。

21 位 伊藤幸祐(1) 12m83(+2.0)

今日は調子がよく、久しぶりの 13m を目指して跳びました。助走はかなり走れていましたが、風が不規則で足が合わず、全助走の練習もあまりできていなかったこともあり、結果は目標に届きませんでした。正選手としての大会出場は初めてでしたが、得点獲得まで約 1m あり、実力不足を痛感しました。

根本陽大(4) NM

男子砲丸投 決勝

9 位 松下典弘(2) 10m77

出力は高かったものの、イメージ通りの動きができず、記録が伸びなかった。快晴で気温も高く、東北地区ではあり得ない 30 人超えで、強い人も多かったため、コンディションはとても良かった。直近の練習で上手く行っていなかった部分が大きいが、修正点を多く見つけられたので、いい経験となった。

10 位 谷地穣太郎 (3) 10m74

1 年ぶりに自己ベストを更新出来た。最初の 2 投は失敗に終わったが、最後の投擲で今シーズンの全てをぶつける思いで投げ、いい記録に繋がったと思う。ただ、本来の目標である 11m には届いていないので、今シーズン中に 11m に到達したい。

26 位 室田竜磨 (4) 7m05

練習では調子は悪くなかったが、初めての試合ということもあり練習通りの投げができないどころか論外な結果になった。得点を狙っていただけに残念な結果になった。また来年頑張りたい。

男子円盤投 決勝

12 位 鍵山弘樹(3) 31m13

リリースポイントをまったくコントロールできなかった。力も入らず、まったくいい投げができなかった。

13 位 小田島創太(3) 30m80

今回は、気温が高く、晴れていたこともあり、体がよく動いた。練習通りの投げをでき、すべての試技で記録を伸ばせたことも良かった。やっと再現性が高くなってきた。さらに記録を伸ばすために、技術、筋力ともに向上させていきたい。

17 位 谷地穣太郎 (3) 26m75

ほぼ練習してこなかったなかでの投擲だったので、回転軸が安定せず、思うように記録を伸ばせなかった。まずは投擲数を増やして回転に慣れるようにしたい。

男子ハンマー投 決勝

6 位 富家彬就(M2) 42m31

1 ターン目の入りを速くしたり、足裏の重心移動を意識するドリルを競技の合間に積極的に取り入れるなど、いろいろな点を試す良い機会になった。ターンの精度はこれまでで最も良かったので、来月の競技会で SB・PB 更新を狙う。

19 位 石井誠大郎 (3) 27m72

来年は腕を長くします。

20 位 谷地穣太郎 (3) 26m76

ハンマーの回転速度に対して体が鈍く、遠心力に体が持っていかれたため、思ったように投擲できずに終わってしまった。不完全燃焼なので、冬季に練習を積みたい。

男子やり投 決勝

3 位 増田併介(4) 55m82

東北大学の他の選手に勝ててよかった

5 位 石井誠大郎(3) 53m84

雨に気負けした。

NM 神篤朗 (2)

☆女子トラック

女子 100m タイムレース決勝

2 位(2 組 1 着) 白鳥名花(3) 12.13(-0.2)

気温が下がった上、レース直前に予想外の雨が降り出すなど、難しいコンディションとなった。記録、順位ともに狙っていた結果には届かなかったが、後半では以前から目指していた動きに近づけることができた。その点では今後につながる収穫のあるレースとなった。ケガの影響で 100m のレースを積めていないので、今後機会を狙いたいと思う。

6 組 5 着 古閑詩季(3) 13.61(+0.3)

序盤から上体の乗り込みがうまく出来ず、加速しきれなかった。また、故障前と比べて可動域の狭さが目立ち、要修正点だと感じた。

女子 200m タイムレース決勝

2 位(1 組 1 着) 白鳥名花(3) 24.68(-2.3)

全カレ後の疲労もあり、コンディションの調整に苦労した。気温や天候には恵まれたが、番組編成の都合上、単独走になってしまい難しいレースだった。狙っていた記録には届かなかったものの、与えられた環境の中では自分の力を発揮することができたと思う。大学 1 年からの 3 連覇を達成することができ、ひとまずほっとしている。

6 位(2 組 1 着) 臼井千晴(3) 25.97(-0.9)

スタートが遅く、ラストも思うように走れなかった。

女子 400m タイムレース決勝

2 位(2 組 1 着) 臼井千晴(3) 57.73

前半抑えすぎてあまりタイムが良くなかった。

女子 800m 決勝

3 位(5 組 1 着) 越後谷苑葉(3) 2:22.33

タイムレース決勝となり、記録も順位も狙った。スタートから積極的に前に出て、200m を 33 秒で通過。その後も前方の選手の動きを見ながらレースを進め、500m 付近で自ら先頭へ立ち、得意な逃げの展開に持ち込む。600m 以降は苦しさが増したが、最後まで自分から動かすことを意識して走り切った。

女子 100mH 決勝

1 組 6 着 上田綾乃(2) 17.92(0.0)

向かい風も強かったが、アップが不十分で出しきれなかった。

☆女子フィールド

女子走高跳 決勝

5 位 鈴木碧恋(M2) 1m45

SB を出してもっと部に貢献したかったというのが正直な感想です。

女子 棒高跳決勝

國岡杏奈(1) NM

棒高跳は初試合だったので良い経験になった。

女子 走幅跳決勝

17 位 末岡由衣 (4) 4m83(+1.1)

足合わせがうまくいかなかった。練習不足。

23 位 古閑詩季(3) 4m58(+0.1)

故障明けで5ヶ月ぶりの大会だったこともあり、3 本の試技で感覚を取り戻すことができず、悔しい結果になった。1,2 本目は踏切姿勢や踏切準備が適切ではなく、修正に手間取った。3 本目は修正でき、当日の中では 1 番良い跳躍だったが、ファールとなった。今後冬季練習にて、再現性のある跳躍を目指したい。

鈴木碧恋(M2) DNS

女子三段跳 決勝

6 位 平山梨緒(2) 10m77(+0.3)

雨の中の試合だったが、身体のコンディションが整っていたため動きは良かった。跳躍全体を通して目立って悪い部分がなくまとまめることはできたが、細かい部分に目を向けると、目線やステップの弱さ、ジャンプ後の上体の倒れなどの課題が見られた。

DNS 伊藤真奈美 (3)

女子円盤投 決勝

10 位 五嶋理子(3) 33m07

一投目は、上半身が先行してしまい 30m 程度だった。二、三投目は、体は動いたが、記録に繋げられなかった。7 月から続いていた不調を試技全体を通して引きずってしまい残念だった。

◎秩父宮賜杯第 58 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会兼第 19 回東北学生女子駅伝対校選手権大会兼第 44 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会(9/27)～仙台大学～

今年度も引き続き宮城県の仙台大学陸上競技場にて全日本駅伝出場をかけた予選会が開催されました。男子 8 名、女子 6 名出走し、合計タイムを競いました。全力を尽くし、男女共に 1 位 という結果で本大会出場権を獲得しました。昨年度に引き続き今年も長距離パート以外の部員も現地で応援をしました。以下リザルトと対校戦に出場した選手の観戦記、長距離 PC からの予選会の総括を紹介します。

●リザルト

・男子総合結果

順位	大学	記録
1 位	東北大学	4 時間 13 分 43 秒 64
2 位	東北学院大学	4 時間 14 分 57 秒 00
3 位	山形大学	4 時間 17 分 53 秒 85

・女子総合結果

順位	大学	記録
1 位	東北大学	1 時間 34 分 09 秒 62
2 位	山形大学	1 時間 37 分 58 秒 79
3 位	仙台大学	1 時間 37 分 59 秒 65

●全日本駅伝予選会選手報告

男子 10000m

5 位 向田祐翔(M2) 30:41.97

東北学院の選手達をマークするために最初から 3'00/km ペースで突っ込みました。リズムが合わず 3000m 手前で離れてしまいしましたが、そこから立て直して自分で刻んで前半と後半 5000m ラップがほぼ同じで上手く走ることができたと思います。他大学のエースとの差を痛感しましたがなるべくタイム差を離されないようにするという当初の目標は達成できたかなと思います。本戦も頑張ります。応援ありがとうございました。

6 位 松本諒哉(2) 31:06.48

自分は 2 組目で前の集団を追う役割でした。1 組で 100 秒くらい差をつけてくれたので気持ち的には楽でしたが前の集団についていくのは覚悟が必要でした。最初の入りが 2 分 56 で、5000m の通過が 15 分 6 秒と、自分的にはオーバーペースな入りだったのですが意外と余裕はありました。ただ、4000m くらいからずっと一人でいつたれてもおかしくない状況だったので不安ではありました。結果的には 3 分 15 までペースが落ちてしまって目標の 30 分台で走ることはできませんでした。しかし、向田さんがほぼ一人で 30 分台が出ているので、実力が足りなかったと感じました。中盤でもう少したれること

を恐れず積極的にペースを上げれたらよかったと思います。 タイム的には少し納得のいかない部分もありますが、レース全体としてはチャレンジできた収穫のあるレースだったと思います。このレースをきっかけにもう一つ上のレベルで戦えるようにまた練習を頑張りたいと思います。

7 位 出田義貴(3) 31:28.56

去年負けたリベンジをすることができ、本戦出場を決められてとてもうれしいです。自分の役割としては二組目に 1 分以上のリードを与えられるように最初から逃げるというものでした。その戦略通り、逃げがハマり、結果的に 100 秒近くのリードを作って一組目を終えることができました。 途中一人できつい場面もありましたが、一周の間で止まない声援のおかげで最後まで耐えきることができました。本当に応援ありがとうございました。本戦では 2 年前のリベンジに加え、地方大としっかり勝負したいと思うので、今後もよろしくお願いします。

11 位 小林由輝(M2) 31:47.33

1 組目で他大学との差がある程度あったため、そのリードを守る走りを目標としていた。 スタートから数人が飛び出し、残りは大きな集団になったため、山内と 2 人で集団に潜伏。学院大の選手による 3000m 過ぎのペースアップにはつかず、こぼれてきた選手を拾いつつレースを進めていたが、終盤はペースを維持しきることができなかった。ラスト 1000m でペースを上げるも、学院大 3 番手との差は縮まらず、そのままゴールした。 今回の勝利は全員が苦しい中で耐えたことによるものだと思います。サポートはもちろん、夜遅くにも関わらず応援に来てくださった他パートや OB の方々、本当にありがとうございました。伊勢路でも良い走りができるよう、練習に励みます。

13 位 山内滉介(3) 32:05.87

全日本大学駅伝東北予選会の 10000m2 組目に出場いたしました、山内です。多くのご支援、ご声援ありがとうございます。 1 組目のメンバーの力走もあり、1 分 40 秒ほどのリードがある状態で走ることができました。チームとして逃げ切りのために、私は 1 キロ 3'10 前後のペースを刻んでまとめる役割でした。 中盤まではうまくペースを刻むことができましたが、後半ペースが落ち、目標タイムからは 20 秒ほど遅れてゴールしました。 チームとして予選会を優勝することができましたが、私としては目標に届かず、悔しい結果となりました。今後はさらに力をつけてよりチームに貢献できるように精進します。今後ともご支援、ご声援のほどよろしくお願いします。

14 位 渡邉優典(4) 32:10.68

私は東北学院大学の一番手をマークする作戦で今試合に臨みました。 序盤は私と東北学院大の 4 人が属する 3 位集団はスローでレースが進み、東北学院大が集団から抜け出そうとしても必死に食らいついていってマークを外させないことに成功しました。 タイムには悔いが残りますが、与えられたミッションはコンプリートできたので、価値のある結果だったとは思います。

15 位 新美友哉(2) 32:11.35

突っ込んで学院を引き離し学院の 1 番手とタイム差をつけることで 2 組目にアドバンテージを取る作戦だった。自分は 6000m 以降大きく垂れてしまったが学院が思ったより振るわなかったのもあり何とか学院の 1 番手には勝つことができた。しかし相手がたまたま調子が悪いおかげで自分のやらかしが何とかなったのであり場合によっては自分のせいで負けた可能性も十分にありえたのでこっから自分の苦手を克服できるよう挑戦していき本戦に臨みたい。

16 位 照内優允(4) 32:11.40

自分の役割は他大の 4 番手に勝つというものだった。渡邉の引っ張りもあり落ち着いてレースを進めた。後半ペースアップには練習不足でついていけなかったが、1 人になっても落ち着い

てあげていき 4 位でゴールした。今シーズンは怪我もあり納得のいくレースはできていないが、本戦では最大限の力を出せるように努力していきたい。

女子 3000m

4 位 鈴木万結(M2) 11:04.55

まず、チームとして人数を揃えて予選会に出場できたことを嬉しく思います。また、日頃から支えてくださった多くの部員の方々、当日に応援やサポートをしてくださった皆さんに、改めて感謝したいです。 今回、正選手として 3000m を走らせていただき、とても貴重な経験となりました。一方で、現時点では、自分が正選手として走ることに十分納得し、自信を持って予選会に臨むことができたとは言えませんでした。今の自分の実力を改めて実感するとともに、まだまだ力をつける必要があると感じています。個人の結果としては、目標としていた 11 分を切ることができませんでした。知佐さんと 11 分を切るようなレースプランを立てていたため、目標を達成できなかったことは反省しています。また、自己ベストまでも約 50 秒の差があるため、今回の結果を今後の課題として受け止め、練習に取り組んでいきたいです。 一方で、3000m で他大との差を作り、チームとして予選会を通過することに少しでも貢献できたことは良かったと思います。走っている最中にこれほど多くの方から応援していただいたレースは初めてで、応援が大きな力になりました。自分一人で走っているのではなく、チームの一員として走っていることを強く実感しました。 今回の経験を今後につなげ、自分自身の結果でもチームに貢献できるよう、課題と向き合いながら練習を続けていきたいです。

5 位 西山知佐(3) 11:05.67

9 月に入り 3000m の PB を更新するなど調子をあげることができ、当日も過度な緊張はなく落ち着いていた。しかしいざレースが始まると、1 周ごとのラップタイムは確認しているのに今自分がどれくらいのペースで走っているのか理解できておらず、てんぱっていたことにレース後に気づいた。想定よりも遅いタイムになってしまったが、大きく崩れることなくライバル校に多少なりともリードを作って 5000m に繋げたのでよかった。

女子 5000m

2 位 田中もえ(4) 17:32.00

昨年の全女駅伝以来約 1 年ぶりの試合となりましたが、今ある自分の力は出し切れたと思います。当日は、たくさんの応援のおかげで、最後まで気持ちを切らさずに走り切ることができました。

3 位 鳥居夕里佳(1) 17:33.02

たくさんの方の応援のおかげで最後まで強気に走ることができ、全日本大学女子駅伝の出場権を獲得することができました。本線では、32 年ぶりに出場できる喜びを噛み締めて走ってきます。全日本大学女子駅伝での応援もよろしくお願いいたします。

5 位 佐伯紅南(2) 17:46.22

3000m までスローな展開で、3000m から先頭集団がペースアップ。4000m までは食らいつくことが出来たが、その後集団から離れてしまい単独走となった。ただ、落ちても 3'30/km を維持して走ることが出来たので、この夏の練習の成果が現れたと思う。タイムは納得行かないが、チームとして全日本大学女子駅伝本戦出場を決めることができ、嬉しく思う。

13 位 塩見薫(4) 19:08.16

自分のペースで最初から走り、途中で集団に追いついた。仙台大の 2 番手を狙えそうだったのでラスト追いついてスパートをかけた。たくさんの応援ありがとうございました。

●全日本大学駅伝東北地区予選会総括

・長距離パートキャプテン：山内滉介

長距離パートキャプテンを務めております、山内滉介と申します。日頃より温かいご支援、ご声援を賜っておりますOB、OGの皆様に、この場を借りて心から感謝申し上げます。

我々は先日、仙台大学陸上競技場にて開催されました秩父宮賜盃第58回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会において優勝し、2年ぶり18回目の本戦出場を達成することができました。昨年は東北学院大学に敗れ、本戦を逃しました、その悔しさを晴らすべく、1年間チーム一丸となって強化に励んでまいりました。出場選手のみならず、部員一同がそれぞれの立場で力を尽くし他結果、目標を達成することができました。また、同日開催されました第44回全日本大学女子駅伝対抗選手権大会東北地区選考会において、女子も優勝を果たし、32年ぶりの本戦出場を決めました。男女ともに地区選考会を制し、全国駅伝の出場を決めることができたことを、部員一同大変嬉しく思っており
ます。

本戦も東北地区の代表として恥じない走りができるよう、精一杯力を尽くしますので、引き続きご支援、ご声援のほどよろしくお願い致します。

・女子駅伝キャプテン：佐伯紅南

女子駅伝キャプテンを務めております、佐伯紅南と申します。平素より我々陸上競技部の活動のご支援を賜っておりますOB、OGの皆様に、心より感謝申し上げます。

我々女子駅伝チームは、先日行われました第44回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会にて優勝し、32年ぶり2回目となる東北地区代表を勝ち取ることが出来ました。ここ数年は、学連選抜として出場する選手がいたものの、チームとして地区選考会に挑むことはありませんでした。そのため、女子の駅伝チームを一から復活させるという試みは簡単な道のりではありませんでした。しかし、選手だけではなく、サポートに回ったメンバーも、一人一人が本戦に出場したいという強い想いを持ち、この機会を逃さず、東北地区代表を勝ち取ることが出来ました。

同日に行われました、秩父宮賜盃第58回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会において、男子も2年ぶりに東北地区代表を掴みました。我々女子がチームとして勝つためにはどうしたら良いか模索する中で、同じチームとして大いに協力してくれた男子と共に本戦に出場できることに、大きな喜びを感じております。

10月25日に仙台市で行われます、第44回全日本大学女子駅伝対校選手権大会で、我々の力を精一杯出し切り、東北大学を背負う誇りを持って戦い抜きたいと思います。これからも引き続きご支援・ご声援のほどをよろしくお願い致します。

◎自己ベスト更新者一覧(8/1~9/30)

男子 100m

元木盛太(6) 10.68(+2.0) 東医体(8/8)

女子 100m

喜多和奏(4) 13.63(-2.3) ユニバーサル記録会(8/8)

男子 200m

元木盛太(6) 22.97(+1.3) 仙台大記録会(9/13)

男子 400m

荒澤陽太(3) 52.50 ユニバーサル記録会(8/8)

鈴木朝陽(3) 52.59 仙台大記録会(9/12)

男子 800m

大崎海斗(3) 1:59.31 仙台大記録会(9/12)

保科陽斗(2) 2:00.33 個人戦(9/23)

女子 800m

越後谷苑葉(3) 2:22.33 二十七大戦(9/23)

男子 1500m

縣昌幸(3) 3:53.06 日本 IC(9/5)

永田悠樹(1) 4:40.71 個人戦(9/23)

渡邊和悠(2) 4:18.64 個人戦(9/23)

女子 1500m

佐伯紅南(2) 4:35.65 東医体(8/8)

女子 3000m

西山知佐(3) 10:58.72 富士ナイター(9/13)

男子 5000m

松本諒哉(2) 14:54.95 富士ナイター(8/29)

山内滉介(3) 15:16.11 富士ナイター(8/29)

竹田佳人(4) 15:35.43 富士ナイター(8/29)

櫻井 航(3) 15:38.38 富士ナイター(8/29)

宮下尚丈(4)15:40.08 富士ナイター(8/29)

及川寛人(2) 15:45.76 富士ナイター(8/29)

仲神誠輝(2) 15:56.84 富士ナイター(8/29)

嶋田壮真(1) 17:08.10 富士ナイター(8/29)

中川結太(1) 17:21.23 富士ナイター(8/29)

女子 5000m

佐伯紅南(2) 17:32.43 富士ナイター(8/29)

男子 110mH

長井颯馬(3) 14.27(+1.2) 関東選手権(8/23)

▲部記録更新!!

男子走幅跳

高林遼(1) 6m60(+0.1) 全日本医歯薬獣(8/30)

男子走高跳

平山朝陽(M2) 1m95 上尾市選手権(8/2)

◎今後の予定

・10/25　第 44 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台市)
・11/1　秩父宮賜盃第 58 回全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知県・名古屋市-三重県・伊勢市)

◎OBOG 戦の開催のお知らせ

今年も OB・OG 戦を開催したく存じます。多くの OB・OG の皆様のご参加をお待ちしております。
日付：11 月 7 日(土)
場所： 東北大学評定河原グラウンド
参加を希望する方は以下のフォームに回答お願いいたします。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScWX4eWJqDif5tdiPyzB92TWuZmc4NKYINbkTMcT21xMAG1xg/viewform?usp=publish-editor
回答締切は 10/24 といたします。締切が近づきましたら、改めてアナウンスいたします。

◎編集後記

全日本インカレ、27 大戦とトラックはシーズン終盤戦ながらも記録更新が相次ぎ、27 大戦では男女共に総合 2 位という結果を残すことができました。また、今年の予選会では男女共に優勝することができ、本戦に向けて一層力を入れて準備をしています。一人ひとりの部員が自身と部活動全体のために日々練習に励んでいます。OB、OG の皆様、引き続きたくさんのご声援をよろしくお願いいたします。

文責　OBOG 通信担当　和久田芯杜　編集補助　堀航太朗、大村将伸

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp